

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学

所 属 薬学部感染制御学研究室 教授

名 前 木村聡一郎

作成日 2025 年 5 月 27 日

1. 教育の責任

湘南医療大学では「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」という建学の理念のもと、継続的学習力、想像力、課題解決能力を育む幅広い教養教育と、エビデンスに基づいた専門知識・技術の修得を基盤とし、責任感と使命感を持って自律的・主体的に実践能力を発展させることのできる医療従事者の養成を基本的使命としている。

建学の理念の基、医療従事者の養成に必要となる授業を設定し、そのような中で私は自身の専門分野である感染症に関わる講義・実習を担当している。薬学部では微生物学、免疫学、感染制御学を中心に、また大学院保健医療学研究科においては、感染看護に関する講義と実習を担当している。その他、湘南医療大学附属下田看護専門学校にて微生物学の講義を担当している。

上記の講義・実習以外にもチューターとして担当学生に対する教育と学生生活のサポート、一般向けの公開講座、他大学(文京学院大学)での講義を分担している。

科目名	学部・研究科	必修・選択	配当年次
微生物学Ⅰ	薬学部	必修	2年前期
微生物学Ⅱ	薬学部	必修	2年後期
免疫学Ⅰ	薬学部	必修	2年後期
感染制御学	薬学部	選択	6年前期
薬学総合プレ研究	薬学部	必修	3年前期
微生物学実習	薬学部	必修	3年前期
卒業研究Ⅰ	薬学部	必修	4年後期～5年前期
卒業研究Ⅱ	薬学部	必修	6年前期
総合演習Ⅰ	薬学部	必修	6年前期
チーム医療論	薬学部	必修	6年後期
感染看護学特論Ⅰ	保健医療学研究科	必修	1年前期
感染看護学特論Ⅳ	保健医療学研究科	必修	1年前期
感染看護学演習Ⅱ	保健医療学研究科	必修	1年後期

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

臨床を意識した授業の実施： 本学の特徴として臨床に強い薬剤師、看護師の育成を掲げている。私の担当は微生物学や免疫学などの基礎科目が中心であるが、その先に繋がる臨床を意識した授業を展開することを重視している。そのため、薬剤師・看護師が活躍する場となる感染管理・感染制御を題材に、授業で扱う基礎情報が臨床ではどのように関連するのかを具体例をあげて解説している。他にも感染症治療を例にチーム医療における薬剤師の役割など、低学年でも臨床に興味を持てるような授業を心掛けている。

医療従事者として必要な資質の養成： 医療は日々進歩していることから、新しい発見に興味を持ち自ら専門分野を開拓できる力が必要となる。また、各疾患を理解するためには、基礎知識の修得と共に、患者の背景や他の疾患との関わり合いを統合する力が必要となる。このように医療従事者には様々な資質が必要とされるため、大学ではそれらの能力を引き出し、伸ばすための教育が必要となる。実習や卒業研究では教員と学生との距離が近いことから、積極的に議論する場を作り、自ら疑問に思い解決する手段を導き出せるよう指導している。これにより、論理的思考力、コミュニケーション能力、自己問題提起能力、自己問題解決能力などを養成できるよう意識している。

2) 理念をもつに至った背景

微生物学や免疫学は基礎科目の一部であり、理解すべき項目が多いのが特徴である。病原体名や細胞名なども多岐にわたり、覚えなければいけない内容も多い。そのため、苦手意識を持つ学生が多く、勉強へのモチベーションも低下する。このことから、微生物学等の基礎科目であっても臨床との接点を明確にし、学生のモチベーションを保ちつつ講義・実習を実施することが重要となる。

私はこれまでに感染症の専門資格であるインфекションコントロールドクターの資格(添付資料(ファイル名:ICD 認定証))を得ており、また薬学部だけでなく医学部・看護学部・臨床検査学部等での教育経験を持つ(参照:教育の方法・戦略)。このため、対象領域(主に薬学と看護学)を中心とし、これまでの経験から様々な立場・角度から感染症を説明することが、学生の理解を助け、学生のモチベーションの維持に繋がると考えている。

一方、現在の医療はチーム医療が中心であることから、それぞれの専門性が非常に重要となる。また、各職種と議論することも多いため、コミュニケーション能力をはじめ、様々な資質が必要となる。これらの資質は講義や実習、研究室での研究活動などでも養成することができることから、教育の理念のひとつとして意識して教育活動を行っている。

3. 教育の方法・戦略

薬学、看護学の学生に対し、私の専門分野である微生物学、免疫学、感染症学を通して、教育の理念にも掲げている以下の2つの大項目を意識して教育を行う。

1) 臨床を意識した授業の実施

これまでに感染症診療の中核を担う医師・看護師・検査技師を養成する医学部、看護学部、臨床検査学部での教育経験を持ち、現在は薬学部の教員として在籍している。このため微生物学・免疫学・感染症学を薬剤師としてだけでなく様々な立場から説明することができる。また、東邦大学医学部在籍時に、東邦大学医療センター大森病院にて感染制御に関する研修に参加し、関連する論文等が認められインфекションコントロールドクターの資格を取得している。そのため感染症診療におけるチーム医療の役割についても説明することができる。このような経験を活かして、微生物学や免疫学等の基礎科目に苦手意識を持つ学生に対し、印象に残るような身近なニュースや症例、疾患・病態に対して興味を持ってもらうに意識して授業を実施している。具体的には、授業の冒頭に講義内容に関わる臨床でのトピックスや症例などを提示し、なぜ授業で扱う内容を理解しなければならないのかを具体例とともに示す。また近年の国家試験では臨床を扱う問題も増えているため、臨床・国試・授業内容を統合して説明することにより、授業での基礎的内容が国試や臨床にも深く関連することを実感してもらう。これらの方針を具体化している方略を以下に列記する。

- ・学会参加等で得た最新の感染症トピックスを紹介し身近なものとして認識してもらう
- ・学生と同年代が罹患する感染症(例:性感染症)を通して興味を持ってもらう
- ・講義で扱った内容に沿った症例を提示し、実臨床との関連性を理解してもらう

2) 医療従事者として必要な資質の養成

医療従事者として様々な資質が必要となることから、私の講義・実習等では特に論理的思考力、コミュニケーション能力、問題提起・解決能力を身に付けてもらえるよう心掛けている。座学が中心となる講義においても上記資質を向上させるような工夫(ディスカッション等)をしているが、特に実習中や研究室配属された学生の研究活動においては、「なぜ」そのような現象が起こるのか、「どうして」そのような検査結果となるのか等、結果よりも過程を重視し、常に疑問を持ち、解決手段を導き出せるような教育を行っている。これらの方針を具体化している方略を以下に列記する。

- ・常に疑問を抱き、自ら解決できる能力の育成を心掛けている
- ・議論により自分の考えを的確に表現し相手の論点を理解できるよう指導している

4. 学習成果

執筆時点で着任4年目ということから経年比較は難しいが、薬学部・微生物学Ⅰの授業アンケート結果を3年間で比較すると、毎年評定点が上昇していることから、授業法の改善効果は確認できている。また下田看護専門学校での独自のアンケート調査においても、特に「授業のわかりやすさ」「重要な部分の強調」「今後役に立つ授業」において高評価を得ていることを確認している。

これまでに 11 名の大学院生の責任著者として学位論文を排出し、15 名の学位論文の共著者となっており、大学院生の研究能力の向上、学位取得に貢献している。

微生物生態学会の教育研究部会員(2015 年～2020 年)として一般市民向けのイベントの補助を行い、小・中学生向けのイベント(2008 年～2022 年)では企画・運営等に携わってきた(東邦大学在籍時)。

5. 改善のための努力

下田看護専門学校において配布資料の文字の大きさが指摘されたが、翌年には対応することによって配布資料の見やすさについて改善していることが示されていた。

微生物学および免疫学においては、その科目の特性上、理解すべき内容が多岐にわたるため、講義の分量が多いとの指摘もあったが、翌年には多い理由を丁寧に説明することにより、そのような指摘は減少した。

2種類の配布資料(電子媒体と紙媒体)を配布することにより、学生個々の学修スタイルにあわせて選択できるようにした。

その他、FD 講習会に積極的に参加し、授業法などの研鑽を行っている。

6. 今後の目標

長期的には、感染症を専門とする薬剤師・看護師を育成し、感染症領域に貢献できる医療従事者を排出することを目標としている。短期的な目標としては、学部・専門学校卒業時もしくは大学院修了時において、臨床における感染症の重要性を示すことができる学生を育成するとともに、医療従事者として必要となる様々な資質が向上していることを目標としている。これらの目標を達成するために、法人の持つ関連病院において感染症を専門とする医師・薬剤師・看護師・検査技師とも連携し、教育機関における貢献の仕方を模索したいと考えている。

【根拠資料】

- ・インфекションコントロールドクター認定証
- ・本人の職歴、業績等: Researchmap (https://researchmap.jp/Soichiro_Kimura)
- ・湘南医療大学薬学部シラバス、湘南医療大学大学院保健医療学研究科シラバス
- ・各講義配布資料
- ・授業アンケート(微生物学 I、2022 年度～2024 年度)
- ・科学研究費補助金採択通知(執筆時点での継続課題番号: 22K08609)